

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

東京五輪の開催に伴う4連休、県内外から大勢の観光客が訪れる。観光客で賑わう地域に久しぶりの活気。子どもたちの夏休み期間に

大型連休設定の効果は証明された。コロナ禍で地域経済は疲弊状態だ。度重なるコロナ関連の負担は、しばらく収まりそうにもない。生活に大切な休日は、生活者の考えを重視すべきとの考えも理解できるが、国も経済喚起を重視した視点を大事にすべきなのだろう。酷暑が続くが猛暑に根性論は必要ないと、エアコンの販売好調が伝わってくる。しかし屋内だけの生活は困難で屋外活動する姿をよく見かける。自然を楽しむだけでなく健康を旨くしてのウォーキング。涼しい早朝や夕暮

れ時ばかりでなく、サイクリングやランニングは、暑さかまわず何時でも見かける。「暑ければ木陰が絶好の休憩場所」と地域の優位性を話してくれる。だがこの酷暑で体調を崩した時の対応を考えて

## お礼は、「すみません」よりも「ありがとうございます」

おくことも大切。地震や豪雨で被災した地域が他の自治体・ボランティアの支援をうまく引き出す意味を持つ「受援力」という言葉がある。先駆けは神戸市が阪神大震災を教訓に「助けられ上手

になる」が大切と使用した言葉だ。災害に限らないと産婦人科医の吉田穂波さんの「受援力ノススメ」。受援力は困った時に助けを求めるとして、笑顔で頼む。感謝の言葉を増やす。などの術だとの距離は心配だが、いつも心掛けたと思う。

テレビ番組「笑点」の大喜利で出されたお題「18歳と81歳」の違い。「恋に溺れるのが18歳。風呂でおぼれるのが81歳」や「心がもろい18歳。骨がもろい81歳」など笑いを誘ったが「自分を探している18歳。みんなが自分を探している81歳」には切実さを感じてしまう。人は、「忘れる」とで悲しみや苦しみが和らぎ、前に進むという。だが忘れたくないことも多い。認知症の1つ「アルツハイマー病」の新治療薬「ア

デユカヌマブ」がアメリカで承認されたとの情報もある。有効性を巡り論議は続くのだろうが、認知機能を失いたくない思いは誰しもが願う事かもしれない。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



降雨が少なく主要水路も水位も極端に少ない。農業への影響が心配だ。